

学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議のまとめ ～切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて～

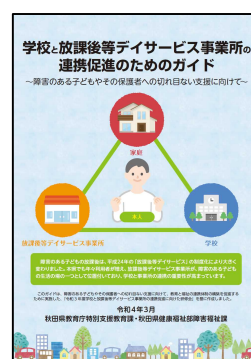
秋田県教育庁特別支援教育課

県教育委員会においては、学校と放課後等デイサービス事業所の相互理解と障害のある子どもに対する支援の共有を図ることにより、子どもや保護者への切れ目ない支援に向けた連携体制の構築を促進することを目的とした取組を実施しています。

令和2・3年度には「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進に向けた研修会」を県内3地区6市で開催し、取組内容を「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進のためのガイド」※1にまとめました。

令和4年度から取り組んできた、「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議」の3年目となる令和6年度は、大館市をモデル市とし、「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議」への参加と、連携促進のための具体的な取組を依頼しています。

※1：「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進のためのガイド」
(令和4年3月 教育庁特別支援教育課・県健康福祉部障害福祉課)



◇令和6年度 学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議（モデル市：大館市）◇

趣旨	学校と放課後等デイサービス事業所の相互理解と障害のある子どもに対する支援の共有を図ることにより、子どもや保護者への切れ目ない支援に向けた連携体制の構築を促進する。	
委員	学識経験者（大学教員）	秋田大学教育文化学部 准教授
	小学校	大館市立有浦小学校 教諭
	特別支援学校	県立比内支援学校 教諭
	放課後等デイサービス事業所	児童発達支援・放課後等デイサービス ふぁみーゆ 管理者
	障害児相談支援事業所	大館市基幹相談支援センター 主任相談支援専門員
	福祉課	大館市福祉部福祉課障害福祉係 主査
	教育委員会事務局	大館市教育委員会学校教育課教育研究所 副主幹

ここでは、令和6年度のモデル市である大館市における1年間の取組とその成果を紹介します。また、今年度も令和5年度から取り組んでいるトライアングル研修会※2を開催しました。その取組についても紹介します。

※2：トライアングル研修会（＜参考＞ トライアングル研修会 参照）

障害のある子どもの切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて、子どもの学習や生活を総合的に支える視点から、三者（保護者、学校関係者、放課後等デイサービス事業所関係者）の連携の必要性について考える研修会

モデル市（大館市）の取組と成果（学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議）

1 現状 第1回学校と放課後等デイサービス事業所連携促進会議より～令和6年6月4日（火）

- ・一人の児童生徒が複数の事業所を使うなど、利用方法は様々である。
- ・学校と放課後等デイサービス事業所が連携し、情報を共有する必要があると感じているものの十分な取組ができていない。
- ・学校教職員の放課後等デイサービス事業所や福祉サービスについての理解が不足している。

2 主な取り組み

<学校関係>

- ・学校と放課後等デイサービス事業所との下校時における日常的な情報交換
- ・放課後等デイサービス事業所への訪問・見学
- ・放課後等デイサービス事業所との情報交換会の設定
- ・放課後等デイサービス事業所へ授業参観の案内配布
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用した情報交換
- ・職員会議等における放課後等デイサービスについての周知
- ・大館市による教職員の夏季研修会（下記参照）への参加
- ・トライアングル研修会への参加（<参考> トライアングル研修会 参照）

<放課後等デイサービス事業所>

- ・学校における情報交換会への参加
- ・施設見学の受け入れ
- ・大館市による教職員の夏季研修会への参加
- ・トライアングル研修会への参加

<福祉関係機関>

- ・教職員夏季研修会講師として、放課後等デイサービスの利用と福祉機関の役割に関する講話
- ・他課で開催する特別支援に関するネットワーク会議への参加と情報提供
- ・各種会議等における学校と放課後等デイサービス事業所との連携についての周知
- ・トライアングル研修会への参加

<実践紹介>

令和6年度 大館市教職員「夏季研修会」

障害児通所支援事業による教職員夏季研修会

令和6年7月31日（水）

◇講話 「障害児通所支援事業による発達支援と学校・家庭との連携

～放課後等デイサービス事業所の利用と支援の実際～」

大館市福祉部福祉課障害福祉係 主査

大館市基幹相談支援センター 主任相談支援専門員

■参加者アンケートより

- ・障害児通所支援事業というものを初めて知った。それぞれに役割があり、障害者に必要な様々な支援があることが分かった。
- ・教師がこのような事業所や市の取組について知識を深めることで、本人や家族への支援につながると思ったので、これからも研修を重ねていきたい。
- ・放課後等デイサービスや相談支援について知っていただけるととてもいい機会になった。これからはもっと積極的に学校にアプローチして、より連携を深めていきたい。

3 今後に向けて

第2回学校と放課後等デイサービス事業所連携促進会議より～令和7年1月27日（月）



小学校教諭

職員会議で放課後等デイサービスについて紹介した。職員に対し、放課後等デイサービスについて情報提供していくことは大事だと思う。

個別の教育支援計画や比内支援学校のような情報交換会の資料を学級担任が変わった際等に、書面で引き継ぐよう進めていきたい。



放課後等デイサービス事業所

児童発達支援管理者

トライアングル研修会にパネリストとして参加したことで、改めて放課後等デイサービスの役割や位置づけについて考える機会となった。

相談支援専門員に入っただき、放課後等デイサービス事業所間での連携を、できるところから進めていきたい。

特別支援学校教諭

連携促進会議に参加して、放課後等デイサービス事業所とつながることができ、見学をお願いさせていただいた。コロナ禍は見学が設定できず、放課後等デイサービス事業所のことを知らない先生が増えていたため、いい機会になった。事業所見学は今後も続けていきたい。



基幹相談支援センター

主任相談支援専門員

相談支援専門員の役割がまだまだ伝わっていないため、周知する機会を作っていきたい。

放課後等デイサービス事業所の個別支援計画、学校の個別の教育支援計画の他に相談支援専門員が作るサービス等利用計画がある。今後は、それらを踏まえた話合いがもてるとよい。

福祉部福祉課障害福祉係主査

7月の教職員夏季研修会で、障害児通所支援事業について教育関係者の皆様に周知できたのが一番の成果。

サービス利用のために、保護者と相談支援事業所、私達の3者で面談をしているが、各学校で行っている放課後等デイサービス事業所との情報交換会と連携できる仕組み作りができるとよい。



4 助 言 秋田大学教育文化学部 准教授 鈴木 徹 氏

- ・本会議を通じて、様々な人達が集まる機会は必要だと改めて思った。様々な機関が集まって、子どものことについて方向性を考えることは、とても重要なことである。
- ・相手の顔が分かり、困ったときや、どうしたらいいか分からないときに話を聞く間柄になることが、連携では重要である。
- ・例えば、学校では、先進的に取り組む学校と取り組まない学校が出てくる。なぜ先進的に取り組まないか考えるより、なぜ取り組むことができたのか考え、うまくいった要素を取り入れていくことが重要だと考える。
- ・放課後等デイサービス事業所「ふぁみーゆ」からの話の、2つの放課後等デイサービス事業所を併用している子どものケースについては、放課後等デイサービス間でつながることは必要なことだと考える。ぜひ、放課後等デイサービス間で、どのような連携ができるか話題にして、積極的に取り組んでいただきたい。
- ・学校、放課後等デイサービス事業所、福祉がなぜ連携するのかというと、子どもの理解や子どもに対する支援を的確に行うためだと思うが、関係機関同士がWin-Winの関係にならないといけない。お互いが自分の支援に還元できるような連携の在り方を探っていく必要がある。
- ・今年度はキックオフで、今年度の取組を来年度どう発展させるかが非常に重要だと思うので頑張っていたきたい。



<参 考>

トライアングル研修会

令和6年9月11日（水）オンライン開催

～保護者、学校、放課後等デイサービス事業所の連携の必要性について考える～

参加者：放課後等デイサービス事業を利用している児童生徒の保護者、学校教職員、放課後等デイサービス事業所職員、相談支援事業所職員、市町村教育委員会、市町村障害福祉担当課職員 ※13市町村から約100名の参加（オンデマンド視聴者を含む）

内 容：○実践紹介

「学校と放課後等デイサービス事業所の連携」の推進～令和5年度湯沢市の実践から～
○シンポジウム テーマ「切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて」

〈コーディネーター〉

秋田大学教育文化学部 准教授

〈パネリスト〉

県立比内支援学校 保護者

児童発達支援・放課後等デイサービス ふぁみーゆ 管理者

大館市教育委員会 学校教育課 副主幹

■参加者アンケートより

- ・保護者、学校関係者、放課後等デイサービス事業所関係者のそれぞれの思いや意見がとても参考になった。
- ・子どもやその家族のニーズに合ったサービスを提供できるように、学校、放課後等デイサービス事業所、家庭での情報共有は不可欠であると感じた。
- ・自分たちの地域の課題を知る貴重な時間となった。